地域に愛され、子供達に愛されるチームを目指します。２０１０年も活発に動き、最少経費で最高の満足感を！

Never give up your Dream・・あきらめない気持ちが未来を変える

小山ボーイズニュース

NO.24　　発行責任者　〒323－0820 栃木県小山市西城南７－６－９　小山ボーイズ球団　飯田研二

理想の中学生野球を目指して、飽くなき挑戦

不完全燃焼？いや、僕たち完全燃焼

中学野球の最高峰、全日本中学生野球選手権大会（ジャイアンツカップ）。過去に２度の予選出場を果たすも、見えない壁に遮られていたが、昨年ようやく関東ボーイズリーグ大会を制覇し出場権を獲得。今年は予選大会から二度目の出場権獲得に球団一丸となって、関東の強豪を迎え撃ち、大きな目標であるＧカップ出場権を勝ち取った。

◎ジャイアンツカップ予選

７月４日茨城県那珂湊運動公園野球場

○予選第一試合

	投手	
小山ボーイズ	広田	
３０００００３０６		
１０００００００１	村上	
東村山中央ボーイズ	浦澤	

三塁打　竹村春・神谷・西川

二塁打　広田②

○代表決定戦

	投手	
武蔵狭山ボーイズ	野村	
０２００３０５		
１２１２３３１２	捕手	西川
小山ボーイズ		

本塁打　竹村春

三塁打　竹村翔・池田②

二塁打　竹村春

武蔵狭山ボーイズは、ハイレベルの打撃力を誇り、練習試合でも苦戦をしいられる強敵であった。主戦投手笠原君の一瞬の隙をつき流れを引き寄せた。

酷暑の大阪で開かれた夏の全国選手権大会は、今年こその意気込みで臨んだ。一回戦を突破すれば楽しみだと、同じくジャイアンツカップ出場の奈良県代表・生駒ボーイズと対戦したが。

◎日本少年野球選手権大会

８月２日　奈良県営橿原球場

○一回戦　午後４時半開始

	投手	
生駒ボーイズ	野村	
００１２０２０５		
０１０１０００２	村上	
小山ボーイズ	捕手	西川

三塁打　西川　二塁打　浦澤

西川の三塁打で先制するも、生駒に２ラン２本を打たれ、横手速球派の岸田君に後半押さえ込まれた。

◎全日本中学野球選手権大会・ジャイアンツカップ

昨年は台風下のジャイアンツ球場で内野フライを落球してペースに乗れず敗退を喫した苦い思い出がある。

８月１２日　江戸川区野球場

○一回戦

	投手	
鉢盛リトルシニア	野村	
０００３０３６		
２００１０６×９	捕手	西川
小山ボーイズ		

三塁打　西川・吉澤

二塁打　竹村春・池田

序盤のチャンスで押し切れず、切れの悪い展開を終盤池田・竹村の二塁打で、一気に突き放す。主戦野村の球威が戻りつつあり、好材料が揃う。ジャイアンツカップ初の一勝をあげる。

全国の中学生が注目するジャイアンツカップは、ボーイズリーグとリトルシニアが各々十一チーム参加し、他はヤング・ポニー・サン・フレッシュ・ジャパンの7リーグ32チームが参加。

全チームが京王プラザホテルに宿泊し、交流を深めつつ、熱い戦いを展開する。中学生には憧れの舞台である。

出場権利は、１４０チームのトーナメントである関東ボーイズリーグ大会の優勝チームに与えられる。また予選出場は同大会ベスト４及び各支部夏の全国選手権大会出場チームが該当する。前述のようにハイレベルの戦いである。

○二回戦　立川市営球場

	投手	
オール枚方ボーイズ	野村	
４０４６１４		
０００００	村上	
小山ボーイズ	捕手	西川

鍛冶舎監督率いるオール枚方との対戦は、やっと実現したという喜びでいっぱいであった。しかし、試合は初回二死からのセカンド前の軟ゴロを内野安打にした時点から、三遊間内野安打、四球で満塁とされ、セカンド裏の小飛球を右翼手との連携悪く落球して失点。三塁強襲・レフト前安打で４失点した。

二回裏、広田の四球を足掛かりに無死一・二塁のチャンスを作るも打線沈黙し反撃できず。歴史的大敗を喫した。

この悔しさを目一杯溜め込んで、更なる飛躍の原動力としたい。良い勉強をさせてもらった。勝負は自らが如何に堂々とプレーできるかに尽きる。

作文　最後の大会を前に

栃木市立栃木南中学校　　３年　廣田龍志

野球が大好きだった僕は、中学入学前に、クラブチームに入団することにしました。僕は、中学の３年間の生活すべてを野球にかけたかったのです。

入団したての僕を待っていたのは、小学校の学童野球とはあまりに違う、厳しい野球でした。

ある程度は予想していたものの、ランニングひとつとっても『三年間、このチームでやっていけるのだろうか。』とみんなの背中を追いながら不安になるものでした。練習時間も長く、平日は５時から９時半、長い日は１０時半位までやります。これが毎日です。時々くじけそうになってしまいます。

でも、やっぱり野球が好きだし、自分で選んだ道だからがんばりました。

一年生の夏、先輩方は全国大会に出場しました。

僕は、まだスタンドで応援です。８月の照りつける太陽の下、『来年は絶対ベンチ入りして全国にでるぞ』と誓ったのを覚えています。そして、二年生の夏。僕は監督から認めてもらえ、背番号２０を頂きました。本当に、跳び上がる程嬉しかったです。

僕は、今まで以上に練習に励み、時間の許す限りバットを振りました。しかし、大会前に練習のやり過ぎから腰を痛めてしまい、打席に入ることが出来なくなってしまったのです。こんなに悔しかったことはありませんでした。せっかく認めてもらえて、チャンスが巡ってきたのに、それを自分の不注意から生かすことが出来なかったのです。

僕はベンチでスコアを任されました。この年は決勝戦で、サヨナラ負けをしてしまい、選手のみんなが泣いているのを見ながら僕は、バットを片付けていました。

あれから一年、僕たちにとって最後の夏が始まりました。一回戦の先発投手は僕でした。みんなの気持ちをのせて一球一球投げました。打線が爆発し、１０対０で快勝できました。いいスタートを切れた僕たちは、準決勝でも接戦を勝ち取ることができました。

チームが乗っているのが分かります。いよいよ全国大会をかけた決勝まで来ることができました。

ところが、この決勝戦をまえに考えもしなかったこと起きたのです。

中学校生活、最大の思い出になるはずの、修学旅行と決勝戦の日が、重なってしまったのです。今までクラブチームの活動で、みんなと別の行動になってしまうことの多かった僕を、いつも励ましてくれた南中の友達。そんな友達との京都や奈良への修学旅行。どんなに楽しいでしょう。僕は本当に悩みました。みんなと一緒に修学旅行に行きたい。

友達も顔を合わす度に『一緒にいこうぜ。』と誘ってくれました。

いつも身勝手な僕に、こんなに声をかけてくれるなんて本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

でも僕は、最後の決断で、決勝戦に出場することを選びました。

いろいろと気遣かって下さった先生方や友達に、県大会優勝という形で気持ちを返したいと思ったのです。

みんなが京都にいるとき、僕は県営球場にいました。熱戦の末、僕たちのチームは勝利し、全国大会の切符を手にすることが出来たのです。チームメイトと抱き合って喜びました。三年間、頑張ってきたことが報われた瞬間でした。

南中の先生方や友達にいい報告ができることにも、ホッとしました。ところで、南中の修学旅行は金、土、日という日程だったので、みんなは、月、火は振り替え休日でした。でも僕は、学校の行事に参加していないので、月曜日と火曜日は登校しなければなりません。試合の疲れもあり、ちょっとだるいなぁ、と思って教室に入ったら、なんと五人の友達が待っていて、

『優勝おめでとう。お前ひとりじゃつまんないだろうとおもって。』

と、僕に付き合って、一緒に勉強してくれたのです。

優勝したときも嬉しかったけど、こんなにいい友達に恵まれていたことに気付けたこの時も、本当に嬉しかったです。

南中の友達も、これから三年間の集大成として最後の地区大会を控えています。僕もこれから全国大会に向けて練習です。どうゆう結果が待っているかわかりませんが、それぞれ会場は違っても、僕たちはお互いを励ましあいながら、最後まで全力で頑張っていきたいと思います。　　（了）

旅行のことなら、
たび倶楽部
感動との出会い
たび倶楽部
海外旅行～日帰り旅行
ご相談はたび倶楽部
TEL　0282－62－2813

小山ブランド
おとん弁当
＜炭火焼肉　６００円＞
これは美味い！
話題沸騰中！
TEL&FAX 0285-23-5329

BASEBALL
PRO SHOP
石川スポーツ
TEL　0282－24－3161
専門スタッフが心からアドバイスをします。

ＬＰガスHOTライン
本社（小山市出井）
０２８５－３０－１０１１
下野支店
０２８５－５３－７７５１
（株）トチネン

歴史の街 京・大阪を観る

全国大会が予定よりも早く終わってしまい。宿のキャンセルに即効性がないため、夏の関西を観光することにした。子供たちの思い出にと考え、「そうだ京都に行こう」と旅行会社のキャッチフレーズのように見学の旅に出た。

金閣寺・清水寺・大阪城の３か所、歴史的に威厳のある場所で教養を深めるに丁度いい、インパクトのある観光地を見てまわる予定。子供たちはリラックスしながら、思っていたよりも興味深く見ていたようだ。

私も数年ぶりの京都観光で子どもと一緒になって、土産物屋を覗いたり、荘厳な建物に感心したところだが、最初の見学先・金閣寺でひとつだけ大きなショックを受けてしまったことがある。

すれ違う人々の言葉の９０％以上が中国語だった。何やらここは中国か？日本語を話すカップルにあうとホッとする。何ということだ。世界の変遷を目の当たりし、さながら映画「猿の惑星」を思い出してしまった。清水寺では坂道の両側が店であり、狭い道を行きかう人たちから、京都弁が聴こえて安心する。さすがに暑いので、清水さんまで行くか座るか悩ましいところ、上り坂の途中の蕎麦屋に入り、サバの押し鮨と冷や奴にアサヒドライでホッとした。次の大阪城では我々以外はすべて中国の人という感じだったが、仕方ないことだと、ここでは納得している。凄まじいばかりの中国パワーに改めて衝撃を受けた。

そうだ、初めて全国大会に来た時には、大阪のクマ蝉のうるさいのには驚いた。栃木にはあんなに品のないセミはいない。みーんみんと夏を告げる風情がある。クマは話し声も聞こえないくらい騒々しい。今では当然と思えても、初めは衝撃であったことを思い出した。

思いがけない観光だったが、改めて日本の歴史・日本人は素晴らしいと思う。静粛の中に強烈なインパクトを放つ金閣寺・ホッとした清水寺・スケールの大きな大坂城ともに、権力の裏側にある古い時代の人達の知恵と技術力には恐れ入る。金箔の技能・壮大な木造建築・外堀内堀・大きな石垣など、輸送はどうしたのか？道具は十分であったか？材料確保は何処でどのようにしたのか？など疑問符ばかりが先に立つ。ひたすら、そのパワーに屈伏するばかりだが、その「重さ」「落ち着き」というものを見学できたような気がする。

ベストショット２０１０

アンツカップ・ブロック予選大会・代表決定戦

野球少年の為に精一杯の努力を継続いたします。逞しい青少年育成に取り組む、NPO法人小山ボーイズ球団

真の中学生野球を目指して

全国大会で思うような成績を挙げられず、打ちひしがれて帰郷する。大会を思い出す度に悔しくて仕方がない。しかし、今年は全国と名の付くものは全部出場し、東日本大会２連覇・関東ボーイズリーグ大会でも２年連続決勝進出ができた。だが、不完全燃焼のような感覚になるのは何故だ。確固たる何かが足りないのではないだろうか。

ここは頭を使って、スタッフ全員が素直な気持ちになって、一つ一つ分析し、善いところは継続し、改善すべき所は積極的に手を入れる時ではないか。

NEVER GIVE UP YOUR DREAM あきらめない気持ちが未来を変える。この精神で真の中学生野球とは・野球チームとは、子供たちの育成とは何かをもう一度考えてみるべきだと思う。本気になって指導スタイルを考え、模範となるべき少年野球チームを作りたい。そういう覚悟で臨まなければ、変わることはできない。変われれば必ず結果はついてくると確信している。

今では５０名を超える選手が集まり、関東圏内の多くのチームとも交流が可能になった。多くの選手が集まれば、選手・父兄の意識は高まり、競争意識と技術格差からくる温度差は必ず生まれる。大会登録は通常２０名で、登録にならない・登録されても出場機会の少ない・いつも試合に出られる選手・父兄の感情的ないらいらは必ず起こるもの。

そういう時には原点に立ち戻り、「何のために野球をやっているのだろう。」と考えることが良いのではないだろうか。単に野球で勝つことや技術で小差上回ることを楽しむのか、子供の人間的成長を楽しむのか、根本的に何を求めて野球をやっているのかを、考えるべきではないか。

球団は、地域の野球少年の心の拠り所にしたいという自負がある。野球少年とは中学生である。子供たちは野球が上手くなりたいということだ。これから長い人生がある。何を慌てる必要があるのか。野球少年達のけなげに努力する姿を見れば、当然のように精一杯の気持ちで応えるという考え方以外に指導方法がない。父兄も一時的な損得で感情をあらわにする必要はない。純粋に応援すべきである。私は小学生の学童野球を指導していた時に、「グランドにおいては、自分の子よりも他人の子を応援するように」お願いしていた。他人の子を応援することができれば、必ず自分の子は可愛がってもらえるものだ。 大人が感情の赴くままに行動をすれば、子供の成長を妨げるのは当然ではないか。これは指導者にも言える問題だ。円満に行く方法は、ただ一つ、指導者を信頼し、一人一人の子供の成長を楽しみにして欲しいということなのです。

今後は、練習を全員で延々とやるのではなく、総合練習を数時間一生懸命やって、個人練習に切り換えて選手に任せればいい。勿論、指導者が目を放すと言うのではありません。選手に考えさせて、選手のやる気の度合いでやればいいと思う。要は集中力とヤル気のある練習ということで、万事強制的にやらせても本当の意味で身につかないということだ。

さらに、選手個々の能力データや技術力のデータを把握して、チーム作りに活かすことで、選手父兄を納得させるデータとして利用できることや選手個々の弱点修正に活用し、選手の個人練習のカリキュラムを作成することで、成長への方向性が指し示せる。

チームの勝利の前に個人技術の向上がないと、チームプレーにはならない。入団式にも言っているが、チームプレーとは自分が上手くなること。上手くならないとチームプレーに参加できません。そう考えたら自分が上手くなればよい。一人一人が自分のペースで上手くなっていければいい訳だ。

動きを覚える・動けるようになる度合は個人個人で違うし、日によって練習量も変えていけばいいし、指導者と個人練習について話し合えばいい。ですから、現時点で無理なことは無理と分かることも重要なことです。個々の温度差・いらいらが行動にでることは、球団全体・特に選手に与える影響は決してプラスにはならない。その修正ができないのであれば、強い言葉として指導する必要があるだろう。

チームが勝つことや好プレーは理屈なしで感動するものである。

感動することで選手の意識も変わってくると思う。どちらかというと意識の低い選手も、やるぞと思うかもしれない。意識の高い選手や上級生のプレーに感動して、自分も意識の高い選手や上級生に近づきたいと思う。グランドが素晴らしい教育の場になっていく。指導者が尻をたたいてやらせて吸収させるよりも、やりたいと思ってやることに大きな効果があると思う。そこで掴んだチームワークは本物だ。温度差なんて入り込む余地がない。つまり、やらされているより、自分でやりたい練習をやる。自分は今、何が出来て何ができないか。どうすれば良くなるのか。球団指導者と親子が、選手の進捗をしっかり把握すれば、選手の位置がわかる。そういう誠意をもって選手とともに歩んでいくことなのだと思う。

「一致団結」「チーム一丸」を言葉として、気軽に使ってきたが、毎日の努力の積み重ねがしっかりとした形になって、はじめてそういう形になるんだと、少しだけ気がついた。気がついたら、即実行する。いつしか全国という舞台で主役を張れるようなことになれたらいいなと期待は胸一杯である。

「活動資金づくり」を応援します。 ご贈答に・ご自宅用にお使いいただいて、チームに還元いたします。
長崎島原名産　手延べそうめん・長崎ちゃんぽんめん　　島原手延素麺共同組合 永田まで fax 095-725-8801